

の2日間にわたって、表記のセミナーが東京大学史料編纂所大会議室を会場に開催された。記録史料記述の国際標準として、ICA(国際文書館評議会)によって提起されている3つのドキュメントーマドリッド原則、ISAD(G)、ISAAR(CPF)ーの理解と、その日本の記録史料への適用を検討・研究してきたアーカイブズ・インフォメーション研究会が、その理論と技法について、より多くの関係者に紹介し、検討する機会を持つべく、全史料協の後援を得て開催したものである。すでに同様のセミナーを2000年12月2～3日(土、日)に、京都市のキャンパスプラザ京都において開催しており、今回は会場を関東に移しての2回目のオープン・セミナーとなる(京都市でのセミナーに関しては、鎌田和栄氏の参加記が『地方史研究』第290号にあるので参照されたい)。

主催者のアーカイブズ・インフォメーション研究会は、1996年7月に「記録史料情報管理理論研究会」の名称で発足(2000年4月に現会名に改称)、①記録史料編成論(Arrangement)、②記録史料記述論(Description)、③データ交換論(Data Exchange)の3つの研究領域に対し、①日本の歴史的背景、②日本の現状分析、そして③海外における理論と実技の展開の検討、という3つの視点からアプローチしてきた。その中心的研究課題が前述の国際標準の理解と日本の記録史料記述への適用、そして、その具体的検索手段の構築であった。

クローズドの研究会を主にした約4年に及ぶ活動の結果、国際標準への理解がある程度進んできたことを受け、研究の成果をひろく公表し、議論を拡げるべく、出版とセミナー開催が会の活動に加えられた。

前者については、理論と技法の根幹部分を紹介することを目的に、2001年2月に『記録史料記述の国際標準』を刊行した(北海道大学図書刊行会 A5判164頁、2,800円)。構成は、前述の3つのドキュメントとその起草者による報告論文の翻訳からなる。

オープン・セミナー

「記録史料(アーカイブズ)の情報管理をめぐる国際動向」の開催

2001年(平成13年)7月12～13日(木、金)

今回のセミナーは、前半で同書をテキストに翻訳者から国際標準について説明があり、後半で国際標準活用の仕方が紹介された。国際標準ではフォンド・レベル以下の記述が扱われているが、それらフォンドを集合するスーパー・フォンド・レベルの記述が実際には必要とされており、スーパー・フォンドの説明と、両レベル記述の具体化―群馬県立文書館所蔵史料全体のガイドとその1フォンドである近世村方文書の試行報告、及び親機関の記録史料への適用―が報告された。このように構成されたプログラムの全体は以下のとおりである。

- ・国際標準成立のバックグラウンドとマドリッド原則について／安藤正人（国文学研究資料館史料館）
- ・国際標準；ISAD (G) について／石原一則（神奈川県立公文書館）
- ・国際標準；ISAAR (CPF) について／吉田千絵（北海道立文書館）
- ・国際標準の活用1-1；スーパー・フォンドについて／青山英幸（北海道立文書館）
- ・国際標準の活用1-2；スーパー・フォンドの試行／鈴木一哉（群馬県立文書館）
- ・国際標準の活用2-1；フォンドの試行：近世村方文書／鈴木一哉
- ・国際標準の活用2-2；フォンドの試行：親機関の記録史料／青山英幸
- ・討 論

京都セミナーでは、この他にISAD (G)をベースに開発されたコンピュータ上の検索手段EAD (Encoded Archival Description)についても紹介されたが、時間の設定上、東京セミナーのプログラムからは外された。

参加者は30名で、文書館、編さん室の職員や大学・大学院の学生が主であったが、とくに会員外で秋田県、福島県、千葉県、神奈川県、愛知県、福井県、山口県といった都道府県レベルの文書館及びその準備室からの参加がめだつた。わずか2日間のセミナーでもあり、理解の困難な面や適用についての疑問点を抱いた方もあつたであろう。また、日本に

おける適用のためのあり方などに思いを致す参加者もあつたであろう。

ISAD (G) 及びISAAR (CPF) は5年ごとにその内容を見直すこととされている。すでにISAD (G) は2000年9月のICAセビリヤ大会で第2版が公表されており、その改訂にあたってはアーカイブズ・インフォメーション研究会も全史料協を通して意見を提出している。一方的な適用ではなく、日本の記録史料の特質に適用できるものとしていくためには、その検討と研究、そして、そのなかからの提起が不可欠であろう。2回のオープン・セミナーや翻訳出版等の活動が、議論の広がりや深化のための契機となることを願うものである。

* 同会 HP

<http://members.jcom.home.ne.jp/ydtanaka/index.html>

太田富康・

埼玉県立文書館／アーカイブズ・インフォメーション研究会